

富山市民生活実態調査（就職氷河期世代のひきこもりに関する実態調査） 事後評価

「令和4年度 重層的支援体制整備事業検討会」（令和4年10月27日開催）において、調査結果等を報告した。

（1）交付金対象事業の実施状況

○事業実施状況について

・市民アンケート調査

① 調査項目

- ・自分自身のことについて
- ・悩みや不安などの相談について
- ・地域とのかかわりについて
- ・富山市が取り組むべき施策

② 調査対象

- ・住民基本台帳から、富山市内に居住する令和4年6月1日現在で15歳から64歳までの市民3,000人を層化無作為抽出法により抽出

	抽出数（人）
19歳以下（15～19歳）	300
20歳代	600
30歳代	600
40歳代	600
50歳代	600
60歳代（60～64歳）	300
合計	3,000

③ 調査時期 令和4年7月～8月

④ 調査方法 郵送調査（回収はWEBによる回答を併用）

⑤ 有効回答 1,106件（回収率36.9%）  
うち郵送回答690件、WEB回答416件

・関係団体等アンケート調査

① 調査項目

- ・相談の状況について
- ・複雑・複合的な困りごとを抱えた世帯について
- ・制度の狭間にある困りごとを抱えた世帯について
- ・支援策について

- ・相談対応について
- ・関係機関との連携について
- ・相談者の状況について
- ・課題に感じることにについて
- ・民生委員・児童委員の活動について
- ・地域共生社会について

② 調査対象

- ・民生委員・児童委員は個人として回答、各団体は組織の回答を集約して回答している。

	件数
民生委員・児童委員、主任児童委員	879
社会福祉協議会（市・各地区・校区）	81
地域包括支援センター	32
障害者相談支援事業所関連施設	8
利用者支援事業関係施設等 （富山市こども保育課、こども健康課、各行政サービスセンター地域福祉課（4箇所）、各保健福祉センター（7箇所））	13
市関係所属 （富山市福祉政策課、生活支援課、障害福祉課、長寿福祉課、保健所保健予防課、子育て支援センター、まちなか総合ケアセンター）	7
計	1,020

※集計の際は、「利用者支援事業関係施設等」を「市関係所属」に含めて集計している。

- ③ 調査時期 令和4年7月～8月
- ④ 調査方法 原則として郵送による発送（回収は郵送とWEBによる回答を併用）
- ⑤ 有効回答 815件（回収率79.9%）  
うち郵送回答700件、WEB回答115件

○就職氷河期世代について

① 回答数

- ・就職氷河期世代 242件
- ・就職氷河期世代以前 417件
- ・就職氷河期世代以降 421件

② 回答結果について

○就職氷河期世代とその他の世代で主な違いがあった質問

・悩みや不安の内容についての質問

→就職氷河期世代では、「仕事・就労の問題」が 51.7%と最も高い。

そのほか、「子育ての問題」、「教育の問題（学習、進学など）」で、他の世代より高い。

なお、就職氷河期以前の世代では、「自分の心身の健康」が 57.8%と最も高く、就職氷河期以降の世代では、「経済的問題（収入や借金などお金の問題）」が 44.9%と最も高い。

・悩みを誰にも相談したいと思わない理由についての質問

→就職氷河期世代では、「相談しても無駄だと思ったから」が 82.4%で最も高い。

就職氷河期以前の世代より 28.3 ポイント、就職氷河期以降の世代より 22.4 ポイント高い

○一方で、孤独感について間接的に尋ねた質問（人とのつきあいが無いと感じることがあるか、自分は取り残されていると感じることがあるか、自分は他の人たちから孤立していると感じることがあるか。）などでは、就職氷河期世代、その他の世代で大きな差はみられない。

## （2）交付対象事業における KPI 実績

	指標名	令和4年度目標値	令和4年度実績
KPI	就職氷河期世代の回答数	570件	242件
KPI未達成の理由	アンケート実施に係る周知が不十分であったことや設問数が多くなったことで回答を控えてしまった対象者がいる可能性があることから、回答率が想定を下回ったため。		

## （3）主な意見

「令和4年度 重層的支援体制整備事業検討会」（令和4年10月27日開催）において、調査結果を報告。下記のとおり、検討委員から意見を頂戴した。

<意見要旨>

- ・「悩みや不安を相談するとしたらどのようなところに相談したいか」という質問に対し、「自宅に出向いてくれるところ」がすごく低いという結果が出た。例えば、19歳以下だと匿名で相談できる、同じ悩みを持つ人と出会えるというところを希望している人が多い。今、SNS やメール相談といった方法で、直接会わずに相談をする人が増えており、直接電話をするということは、あまり若者はしない。相談の形はすごく変わってきている。
- ・SNS での相談が広がってきていると思う。地域が特定されない、住民でなくても相談できるということも要因にあるのではないかと。もしかすると富山市内に住んでいる人も、他の

ところにある SNS に相談している可能性もある。他方で、SNS だけで済むということはなく、やはり実際に会ってとなったときには、比較的生活圏にあったほうがよいということになるだろうから、そういったことの必要性和 SNS の活用について、検討の余地がある。

#### (4) 今後について

今回の調査結果や検討会での意見を踏まえ、就職氷河期世代とその他の世代への支援を、重層的支援体制整備事業の中で一体的に実施していくものとする。

一体的実施にあたっては、悩みや不安の内容に関する質問において、世代間の差があることや重層的支援体制整備事業検討会での意見に留意しつつ、関係各課と連携を図りながら、相談・支援に至るハードルを下げ、必要な相談や支援が届く仕組みづくりを行っていく必要がある。

今後も、重層的支援体制整備事業の中で、本調査結果を活用し、本市の今後の取組を検討していきたい。

#### (5) 公表について

本事後評価を PDF 化のうえ、市ホームページでの公表を行う。